

天吊形 据付工事説明書

PFA012D614 ▲

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。ワイヤレスユニットの取付方法は、ワイヤレスユニット付属の説明書をご覧ください。室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷暖配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。また、故障診断は、室内ユニットの結線図表をご覧ください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、「**△警告**」「**△注意**」に区分してありますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に「**△警告**」の欄にまとめて記載しています。しかし、「**△注意**」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書に、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等）をお客様に説明してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書をお渡しいただくよう依頼してください。

△警告

- 据え付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に実行。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災等の原因になります。
- 小部屋に据え付ける場合は万が一冷媒が漏れた場合も限界温度を超えない対策が必要。
限界温度を超えない対策については、販売店と相談して据え付け。万、冷媒が漏れて限界温度を超えると重大事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れや、火災、感電等の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に実行。
強度が不足している場合は、ユニットの落下等により、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
- エアコンの設置や移動の場合、冷媒サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気等を入れない。
空気等が混入すると冷媒サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 室内ユニットの配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷媒サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。
ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける。
冷媒配管を取り付けておらず、サービサルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷媒サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービサルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷媒サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。
- 空気清浄機、加湿器、暖房用ヒーターなどの別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取り付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対にしないでください。また、改修はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据え付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 室内機の修理・点検作業に際して「室内ユニット電源ブレーカー」を必ず落とす。
点検・修理にあたって、室内ユニット電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になることがあります。

△注意

- アース（接地）を確認する。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。
- 正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
大きな容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線をヒューズに使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万が一ガスがユニットの周囲に漏ると、発火の原因になることがあります。
- 腐食性ガス（亜硫酸ガス等）、可燃性ガス（シンナー、ガソリン等）の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取り扱う所での据付け、使用は行わない。
熱文の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 洗濯室等、水の掛かる場所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしてありません。水が掛かると感電、火災等の原因になることがあります。
- 食品・動物糞・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下等の原因になることがあります。
- 病院、通信機器などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据え付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線送信機等の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所への据え付けは避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所
・硫黄系ガス、塩素系ガス、酸・アルカリ等、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場等）
・車両・船舶等移動するものへの設置
・高周波を発生する機械を使用する所
・化粧品、特殊なスプレーを頻りに使用する所
・積雪の多い所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損傷が生じる恐れがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で置くとユニットの落下につながり、ケガ等の原因になることがあります。
- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたり、ドレンパン等に損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れ等の原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくと、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管は腐蝕性ガス等、有害ガスの発生する排水溝には直接入れない。
室内に有害ガスが流入し、中毒や酸欠状態になる恐れがあります。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対にしない。
試運転時排水が確実に実行されていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に実行。
不完全な断熱工を行うと配管表面が結露して、露たれ等を生じ、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発火、発熱の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 製品の運搬は充分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実に実行。
梱包材にケチ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。
- フィルターをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミ等が詰まり、故障の原因になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになる恐れがあります。
- エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源スイッチによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

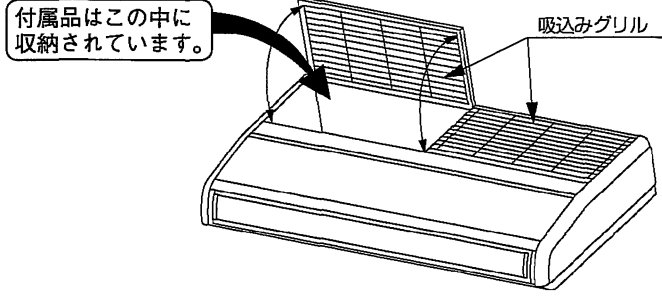
①据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
○機種・電源仕様 ○配管・配線・小物部品 ○付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用			吸込みグリル用			
	平座金(M10)	型紙	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	バンド	ドレンホース(クランプ付き)	固定金具	ねじ(M4)	断熱材	ねじ
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	2個	1個	4個
ユニット吊下げ用	ユニット吊込み調整用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレン配管接続用	ドレンホース固定用	固定金具取付用	ドレンホース用	グリル固定用	

※以下部品はワイヤレス機のみ付属されています。

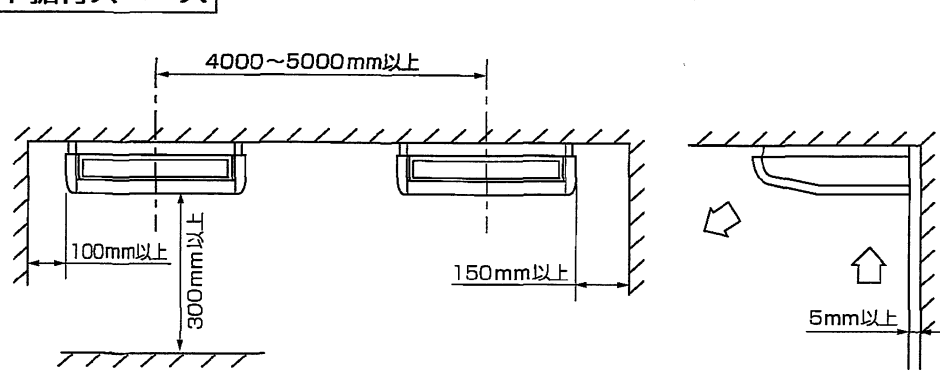
ワイヤレスリモコン用			
リモコンホルダー	リモコン用電池	木ねじ	ワイヤレスリモコン
1個	2個	2個	1個
	UM-4	リモコンホルダー用	



②室内ユニットの据付場所の選定

- 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さ3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が23℃以下、相対湿度80%以下の所。
 - 本ユニットは、JIS 露点条件下に試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態を運転すると水滴が落下する恐れがあります。天井裏に据付する際は、ユニット天面に断熱材を貼り付ける等、結露に対する配慮をしてください。
 - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
 - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接、吸込まない所。
- ②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下により、ケガの原因になります。
- ③室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を4~5m以上離して設置してください。

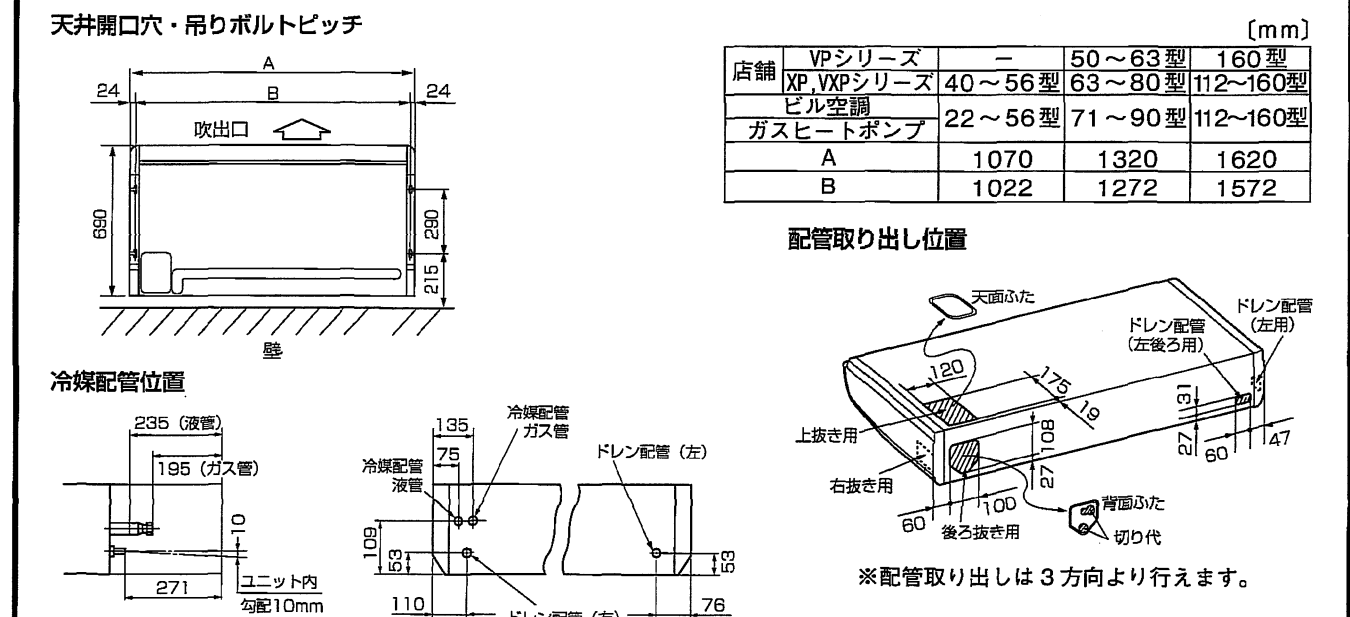
室内ユニット据付スペース



③据付け前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震プレートを設置する。
- 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げられる場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震プレートを設置する。
- 吊りボルト・ナット・パナ産金（M10）を4組現地で手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



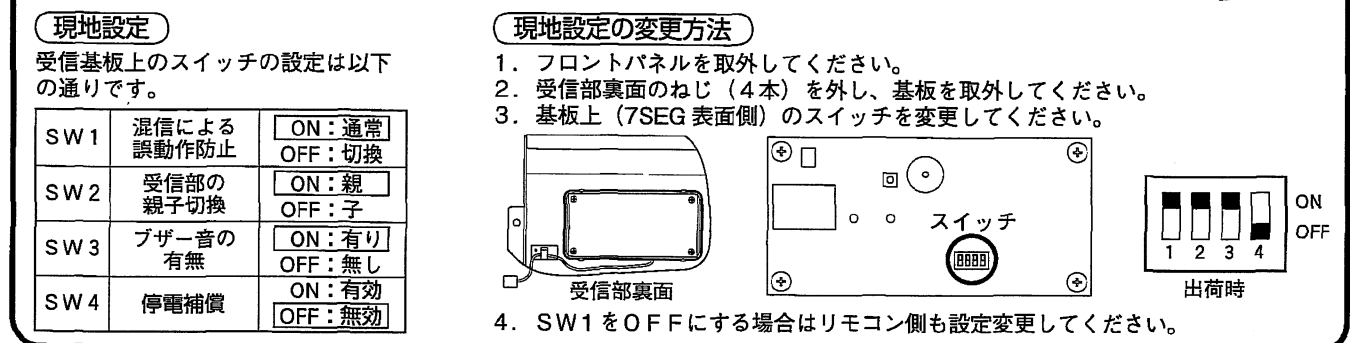
ユニットの搬入、据付

- 搬入時はできるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- 開梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包み、ユニットを傷つけないよう注意してください。
※サイドパネル、吹出ルーバ等、プラスチック部分を持たないでください。
- 開梱後ユニットをおく場合は、必ず吸込みグリル側に上にして置いてください。

吊り込み前の準備

1. 吸込みグリルの取り外し
スッパをスライドさせ、ピンを抜いてください。
2. サイドパネルの取り外し
ねじを外し、矢印方向にスライドさせてください。
3. 吊り金具の取り外し
ねじを外し、取付ボルトをゆるめてください。

ワイヤレス機の場合



③据付前の準備の続き(ワイヤレス機のみ)

リモコンの変更

(1) 混信防止設定
[風向] ボタンを押しながら [リセット] スイッチを押すか、[風向] ボタンを押しながら電池を投入すると、設定が混信防止設定へ切り換わります。

(2) 自動運転の設定変更
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ(除く冷暖フリーマルチ)は、自動運転ができません。これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。

[運転切換] ボタンを押しながら [リセット] スイッチを押すか、[運転切換] ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意:一度電池を取り外すと初期設定(工場出荷時設定)へ戻ります。電池を取り外した時は、再度上記操作を行ってください。

<自動昇降パネル機能への対応方法>

(3) フィルター自動昇降モード有効
次の①、②いずれかの方法によりリモコン設定をフィルター自動昇降モード有効に変更してください。

① フィルターボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、フィルターボタンを押しながら電池を投入する。
② リモコン裏ボタンを外し、ジャンパー線を切断する。

設定を実施すると、フィルター自動昇降モード時、ディスプレイに「**フィルタ**」と表示されます。

(4) グリル降下長さの設定
自動昇降パネルのグリル降下長さは、ワイヤードリモコンを室内機に接続して行ってください。詳細はパネルに同梱されている据付説明書を参照してください。(初期値は2.0m)

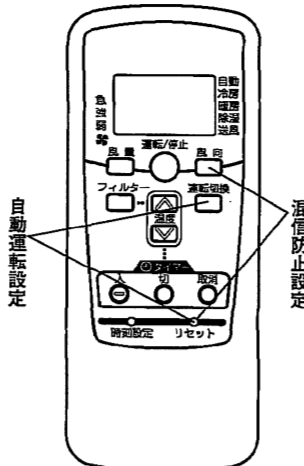
※注意:一度設定した後は、室内機のコントローラのマイコンが記憶するため、ワイヤードリモコンを接続し続ける必要はありません。

電源周波数の設定変更

(5) 自動昇降パネルに取り付け時は、電源周波数の設定をワイヤレスリモコンを用いて必ず行ってください。(初期設定は60Hz)
① フィルターボタンと風量ボタンを同時に3秒以上押しすると周波数設定モードになります。
② 設定温度表示部に現在の周波数設定が点滅表示されます。
③ [Δ] ボタンを押すと「60」表示となり、[V] ボタンを押すと「50」表示となります。
④ 周波数設定後、フィルターボタンを押すと、周波数が確定され、室内機にデータが送信されます。約2秒間設定された周波数が点灯した後、元の表示に戻ります。

●お願い

上記操作方法を必ずお客様に説明してください。(操作方法はエアコン本体に付属の取扱説明書にも記載してあります)



⑤冷媒配管

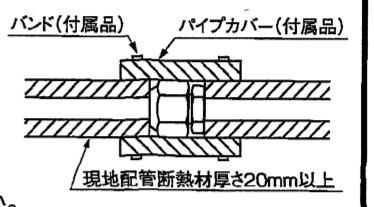
冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。冷媒R22で使用していた既設配管を使用する場合は、下記点を留意してください。
 - ・フレアナットは製品に付属されているもの(JIS第2種)に交換してください。またフレア部は新たにフレア加工してください。
 - ・薄肉配管の使用は避けてください。
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金細目無銅管(C1220T、JISH3300)をご使用ください。また管内の外周は黄銅であり、使用上有害な硫酸、酸化銅、ゴミ、切粉等(コンタミ)の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷媒油劣化等の原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。R410A以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。
- 据付けに使用する配管は室内に保管し、両端とも口を封止する直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。

作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを外す。冷媒R22の配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません)。
 - フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力が掛かっている場合があります)
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
 - 配管の曲げはできる限り大きな半径で行い、曲げなおしを何回も行わないでください。また、配管をねじったり、つぶしたりしないでください。
 - フレア接続は、以下のように行ってください。
 - ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。
 - ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで右表の締め付け力で締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかませ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
 - ガス側配管、液側配管とも断熱材は完全に覆ってください。
 - 配管は断熱しないことと結露し水漏れします。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

パイプ径	締め付け力 N・m
φ6.35	14~18
φ9.52	34~42
φ12.7	49~61
φ15.88	68~82
φ19.05	100~120



④室内ユニットの据付け

作業手順

1. 吊りボルト位置、配管位置を選定してください。(1) 付属の型紙を参考に、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトと配管用の穴あけを行ってください。

※注意:位置決定は、実測により行ってください。

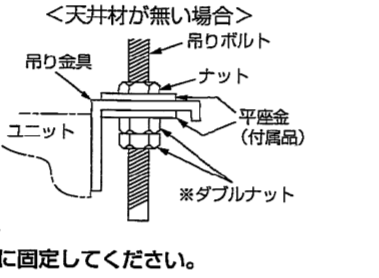
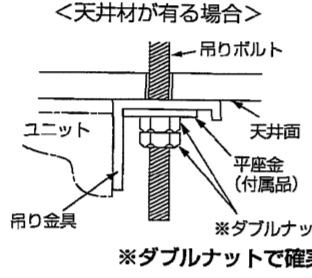
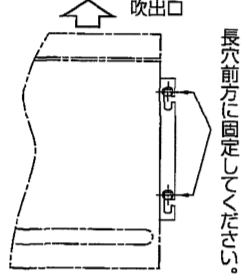
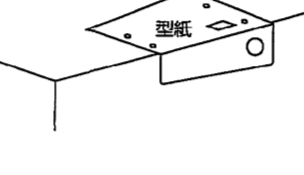
(2) 位置決定後、型紙は取り外してください。

2. 所定の位置に吊りボルトを設置してください。

3. 吊りボルトは4本使用し、1本当り500Nの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。

4. 吊りボルト長さは右図の寸法を厳守してください。

5. 吊り器具を吊りボルトに固定してください。



6. ユニッツを金具に据付けてください。(右図参照)

(1) 吊り金具前より、ユニットをスライドさせ、ボルトを引っかけてください。

(2) 取付ボルト(M8)を左右4箇所確実に締め付けてください。

(3) ねじ(M4)を左右2箇所締め付けてください。

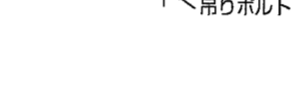
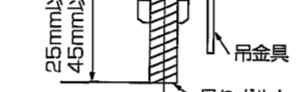
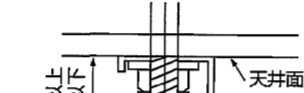
▲警告:サイドパネルは前から後ろ方へ向け引っかけた後、本体に確実に

ねじ止めしてください。

ねじ止めされない場合、本体が落下し、ケガの原因になります。

※ドレン水を流れやすくするためにユニットを排水側に下向きに据付けてください。

▲注意:逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。



⑥ドレン配管

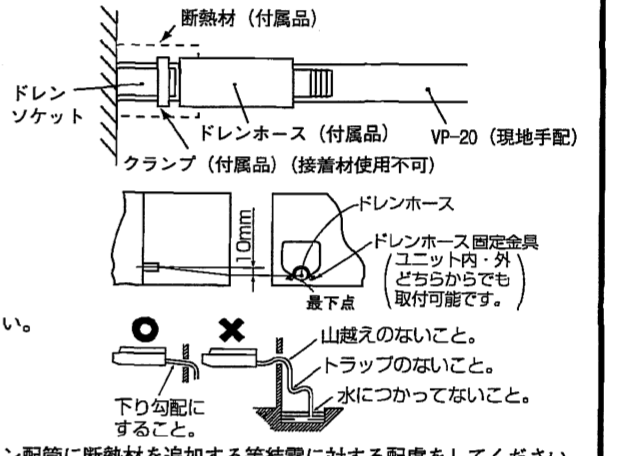
●ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、屋内に漏水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。試験運転時排水が確実に稼働していることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

作業手順

1. 付属のドレンホースを本体ドレンソケットの根元まで差し込み、付属のクランプで確実に締め付けてください。(接着剤使用不可)
 - ドレン配管を左側に行う場合は、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材(筒状)を右側接続口に付け替えてください。
 - ▲注意:ドレンプラグを外す時は、水の飛び出しに注意してください。
2. ドレンホースを付属の金具で下向きに固定してください。
 - ドレンホースはたるまないよう固定し、右図のように10mmの勾配をつけてください。
 - 電気配線がドレンホースの下に入り込まないようにしてください。
 - ▲注意:ドレンホースは必ず金具で固定してください。ドレンホースがオーバーフローする恐れがあります。
3. ドレンホースにVP-20(現地手配)を接続してください。(接着剤使用不可)
 - ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ(VP-20)を使用してください。
 - ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないよう施工してください。
4. エア抜きは絶対に設けないでください。
5. ドレン配管の断熱工を行ってください。
 - ドレンホースとクランプは付属の断熱材を使用して断熱してください。
 - 高湿度の環境で使用する場合、ドレン配管に断熱材を追加する等結露に対する配慮をしてください。

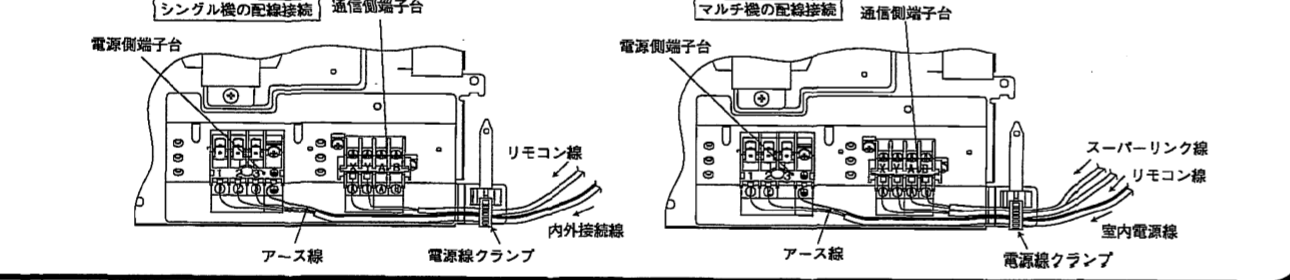


ドレン排水テスト

- ドレン配管工の完了後に、排水が確実に稼働していることと、水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

⑦電気配線取だし位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
 - 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
 - D種設置工事を行う行ってください。
 - 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
1. 電装箱の蓋(ねじ2本)を取り外してください。
 2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
 3. 各配線をクランプで固定してください。
 4. 取外した部品を元通りに取付けてください。



⑩風向設定のしかたの続き

7. [セット] ボタンを押す
上位置位置が確定し、設定位置を2秒間表示します。その後、下位置位置表示となります。
[例] [No.1 上2] ←確定内容を2秒間表示

(但し、リモコンが停止モードであっても、ファン残留運転等で、室内ユニットが運転している場合は、本動作はしません。)
[例] [No.1 上2下6] ←確定内容を2秒間表示

8. [ルバー] ボタンを押す
ルバーの下位置を選択します。
「位置1」が最も水平で、「位置6」が最も下向きとなります。

「設定完了」

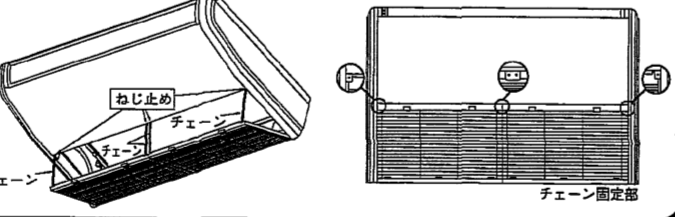
9. [設定完了] ボタンを押す
上位置位置、下位置位置が確定し、設定位置を2秒間表示し、設定完了となります。
設定完了後、設定したルバーNoのルバーが、停止位置から下位置位置まで移動し、その後停止位置に戻ります。

10. 「**運転/停止**」 ボタンを押す
風向設定モードを終了し、元の表示に戻ります。
*ご注意ください
上位置と下位置を同じ位置に設定すると、ルバーはその位置で固定され、オートスイングも動きません。
設定の途中で、[リセット] スイッチを押すと、1回目の表示に戻ります。また、設定の途中で、[運転/停止] スイッチを押すと、本モードを終了し元の表示に戻ります。但し、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
●リモコンが親子接続されている場合、子リモコンでは、風向設定操作はできません。

⑧吸込みグリルの固定

●電気配線工完了後、吸込みグリルを固定してください。

1. 吸込みグリルに固定されているチェーンを、付属のねじで室内ユニット本体に取付け、吸込みグリルを閉じてください。



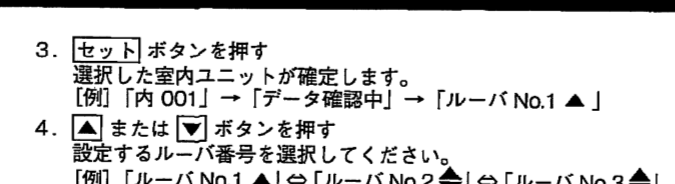
⑨ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だとき	チェック欄
室内ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱材は完全に敷きましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
電気配線・配管はありますか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	運転時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑩風向設定のしかた

ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルバーの動作範囲を、変更することができます。本モードで上位置位置と下位置位置を設定すると、ルバーは、設定された上位置位置と下位置位置の間で動作します。各ルバー毎に個別の動作範囲の設定が可能です。



1. [セット] ボタン [風向調整] ボタンを同時に3秒以上押し、リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合、下記の表示ができます。

3. [セット] ボタンを押す
選択した室内ユニットが確定します。
[例] 内001 → 「データ確認中」 → 「ルバーNo.1 ▲」

その後、4項へお進みください
[「データ確認中」 → 「ルバーNo.1 ▲」]
リモコンに接続されている室内ユニットが複数の場合、下記の表示ができます。

4. [ルバー] ボタンを押す
設定するルバー番号を選択してください。
[例] 「ルバーNo.1 ▲」 → 「ルバーNo.2 ◆」 → 「ルバーNo.3 ◆」 → 「ルバーNo.4 ▼」
※注意:「ルバーNo.1 ▲」を選んでください。その他ルバーNo.を設定しても無効となります。

5. [設定完了] ボタンを押す
ルバー作動範囲の上位置位置を選択します。
[例] 「No.1 上位置2 ◆」 ←現在の設定位置を表示します。

6. [ルバー] ボタンを押す
ルバーの上位置位置を選択します。
位置1が最も水平で、位置6が最も下向きとなります。
「位置1」は、出荷時の位置に戻すための番号です。出荷時状態に戻す場合は、「位置1」を選択してください。
[例] 「No.1 上位置1 ▼」 → 「No.1 上位置2 ◆」 → 「No.1 上位置3 ◆」 → 「No.1 上位置4 ◆」 → 「No.1 上位置5 ◆」 → 「No.1 上位置6 ◆」 → 「No.1 上位置1 ▼」

7. [設定完了] ボタンを押す
上位置位置、下位置位置が確定し、設定位置を2秒間表示し、設定完了となります。
設定完了後、設定したルバーNoのルバーが、停止位置から下位置位置まで移動し、その後停止位置に戻ります。

